

# 第21回人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー

in北九州

現地実行委員会ニュース No.3 2010.3.23 発行

(当面の連絡先) 健和会労組 581-1864 Eメール intessa@jeans.ocn.ne.jp

日高携帯 090-8225-7182 ホームページ <http://kyusemi.jp/>

北九州セミナー学習企画第1弾が、2010年3月6日(14時~17時)に、「真鶴会館」4階で、「子供の貧困と現代日本の働き方、働かされ方」というテーマで開催されました。参加者は68名でした。

## 第一部 パネルディスカッション

### パネラー

保育の現場から：Aさん(元保育士)

学校の現場から：Bさん(養護教諭)

法律の現場から：Cさん(弁護士)

以下、学習会の要旨を報告します。

【田村】進行は、九州社会医学研究所の田村の方でさせていただきます。今、貧困の問題、格差の問題は、非常に大きな社会問題になっています。そういう社会現象をどうとらえていくのか、また、それをどう解決していくのか。

////////////////////

### 見えにくい貧困の実態

////////////////////

しかし、なかなか貧困が見えにくいと言われてきました。最近では派遣村の問題だとかで、少しずつ貧困の問題ということに、我々も直接的にふれることが出来るようになってきましたが、現実問題としての貧困がどう現れているのかということについて実体を知ることから考えていく必要があるだろうと思います。

私たちがやろうとしている「労災職業病の九州セミナー」は、大人の働く人たちの働き方の問題を考えていくセミナーで、子供たちが働いているわけでは当然ありません。が、子供たちの貧困の背景には親の世代、ひょっとしたら、おじいちゃん、おばあちゃんの世代の貧困の問

題というのが、色濃く影響をもたらしているんじゃないかと思います。

今日は3人のパネラーの方をお招きしております。パネルディスカッションする中で理解を深めていきたいと思います。

////////////////////

### 保育の現場から

////////////////////

【Aさん】私は元保育士でしたが、現在も保育職場にかかわっているので、保育現場から見えてくるさまざまな乳幼児の姿を通して貧困についての問題提起になればという形で、話したいと思います。目覚めていない状態で登所してくる、子供さんの生活はどうなっているのか。

《 親の都合で振り回されている 》

パチンコだとかカラオケだとか、親の遊びにつきあわされる子供たち。親の遊びがあってそれに子供が引きずられてしまっている状況。ゲームとかテレビを遅くまで親につきあわされる状況。「どうして早く寝られないの」と聞くと、「お父さんが寝むってからしか帰ってこない」と。「じゃあ朝ごはんは一緒に食べたら」と言うと、「朝は子供が寝ているうちに出ていく」と。

「お父さんに一緒にご飯を食べてもらうのが楽しみなので、子供を起こしている」と、そういう働いているお父さんの状況とか、一人でお風呂に入れきらないから、遅く帰って来るお父さんを待って、やっとお風呂に入れるんだという、育児能力の低い部分とか、そういうものが見えてきます。

《 ダブルワークで疲れ果て 》

もうひとつは一人親家庭に多いんですけれど

も、ダブルワークです。一つの仕事をし、それだけでは生活が成り立っていかないので、一旦子供を保育所から引き取って、兄ちゃん姉ちゃんに留守番させといて、次の仕事に出ていくという形で、お母さんいつ寝ているのと聞きたくなる状況。ダブルワークではないんですけど、勤務時間が非常に長いために、外勤の途中で子供を迎えに来て、無認可の保育所に「2重預け」。日曜日の無認可保育所預け。そういうものがあって、ほんとに親子のふれあう時間が少ない。

《 心の貧困が深刻 》

現場の保育士に「貧困」をどう思うと問うと、多くの保育士が、経済的な貧困よりも「心の貧困」のエピソードをたくさん語ってくれました。朝食抜きだとか、着替えがないとか、季節に合わない服をいつまでも着ていて、なかなか言っても変わらないとか、家庭訪問したら、包丁・まな板がないとか、そういうことがどんどん出てくるんです。

たとえば朝食抜きの問題にしても、それが言われ出してからずいぶん立ちますよね。随分立つということは、取りも直さず朝食抜きという生活をしてきた子供が大人になって、幼児というか、小学生を育てているのが、今ではないだろうかと思います。ですからお母さんに一生懸命こちらから子供の育ちの問題で、朝食の問題を訴えても、なかなか胸に響かない。なぜなら、自分自身がそうやって来て、必要を感じないんです。

《 孤立家庭の実態 》

虐待も扱うんですけど、虐待のリスクが高いといわれる孤立家庭。あるいは経済的な不安定。あるいは両親の不和なんかのことが、虐待のリスクが高いといわれるんですけども、このことが次世代へ連鎖されていっている。隣近所とのつながりがないということは、随分前から言われていますけども、たとえばこの前電話があったのは、ギックリ腰になったために、生まれて何ヶ月かの子を見てくれる人がいない。隣近所とかじゃなくて、つながりが親子でもない。親

戚がない。

《 思いやりのある行政を 》

ところが、保育行政の貧困さなんですけど、最低基準というのは、昭和23年にできた最低基準がほんの少しずつは改良されましたけれど、ほとんどその基準のままで、保育所で育てられているという状況で、非常に受け持ち人数もたくさん持たされている。部屋は、食べる場所、遊ぶ場所、寝るところがひとつ。ですから食事が遅い子をゆっくり待ってやれなくて、横でお掃除をして、お布団を敷くというようなことが、当たり前のように保育所の中でおこなわれている。これで文化が育つだろうかと片一方で思いながら、そうせざるをえない。

《 デンマークで学んだこと 》

9月にデンマークに視察に行ってきました。高い税金を払っているデンマークの人たち。保育所施設も見ました。老人施設も見ました。病院のことも聞きました。

本当に行き届いているんですね。どうしてこんなふうに福祉が行き届いているのか？働かなくていいやというふうにならないんですか？と、日本的発想で尋ねたら、行政の方も通訳の方も答えたのが「信頼」という言葉だったんですね。なんかすごく考えさせられました。

日本の今の政府が信頼に足るのか。消費税を増やすとか言っているけど、それが本当にライフラインに返ってくるのか？という疑問から出発しなければならぬ日本だと思うんです。

////////////////////

学校の現場から

////////////////////

【Bさん】私は中学校の養護教諭をしております。私は保健室から見える、子供の健康だけでなく、学校から見えるものを含めて話をさせていただきたいと思います。

中学校では、おそらくどこの学校でも、卒業生に標準服(制服)や体操服を学校に寄付をして下さいと呼びかけをします。それはもちろん生徒指導に使うことのほうが多いわけなんですけど、

新入生の中には経済的に標準服や体操服を準備できない家庭があるためでもあります。

《 学校で怪我をしても、保険証はある 》

学校生活では、子供たちは元気がいいので、体育とか休み時間とか部活とかで、怪我をたくさんします。そういう場合に保健室に来るわけですが、ある時、ハンドボールをしていて、男の子が肩を脱臼してやってきました。子供と私で病院に行って、処置をしてもらって、後日、保険証とお金を持って行って支払いを済ませてくださいと説明をするわけです。すると、担任から私に話しがあって、おうちの人が言うには、すぐ払える現金がないと言われたんだけど、先生どうしたらいいと言われて、時々そういうことがあるんですが、すごく悩みます。

《 修学旅行に行けない 》

中学校の中で、一番のイベントは修学旅行なんです。普段学校に来てなくても、修学旅行のときはやってくる生徒が今までは多かったわけです。最近はそうではなくなっています。集団生活がいやな生徒は、修学旅行には参加しなくなっていますし、経済的理由で参加しない生徒も毎年1～2人います。

北九州は積立とかありませんので、5万円一括の支払いなんですけど、就学援助を受けていれば、後からお金は降りてきますが、一昨年参加しなかった女の子は、母子家庭で就学援助を受けていたんですが、準備をするお金もお小遣いもあげられないと親に言われて、子供が修学旅行に行くのを断念したわけです。その生徒が出発する日、小倉駅の広場に私服で一人で見送りに来てくれました。どんな思いで私たちを見送ったのかと思うとつらかったです。

《 高校が受験できない 》

来週の火曜日はいよいよ公立高校の受験になるんですが、高校進学も経済的な面を抜きにして語ることはできません。私立高校の受験料はいま、平均1万2千円なんですけど、これが払えないと言って私立高校を受けずに、公立一本で頑張っている生徒もいますし、昨年は1万2

千円の受験料を払えなくて、2回分割をして払った生徒もいました。

《 親も悩んでいる 》

そんな子の親御さんもきっと悩んでおられるんだろうなと思うんですが、今週も家出をした女生徒の行方を捜して、担任と教頭と私の3人で夜の街をさまよったわけですが、その家庭も母子家庭で、私立高校に進学したいという希望があったので、願書を提出する直前までその方向で話しが進んでいたんですが、やっぱりお母さんはお金が払えませんということで、土壇場でひっくり返ってしまって、本人は泣く泣く公立高校に志望を変えたという生徒でした。

その日の12時ぐらいまで、私たちは、お母さんとずーと話をしたんですが、お母さんも一生懸命されているのは、わかるんですよ。

だから、お母さんの対応が良いとか悪いとか別にしてですね、ほんとうに誰も責められないなと私は感じました。

////////////////////

法律の現場から

////////////////////

【Cさん】弁護士として法律相談をやっていて、何の相談が多いかという話をしますと、一つは離婚。相談される方が5名ぐらいこれらたら2～3人は離婚の相談です。もう一つ多いのが、労働事件。個別労働事件と言って、解雇とか労働条件が切り下げられたとか、あるいはハラスメント。職場で受けたとかというようなことで、失業とか働けないという、労災関係の話の方が非常に多いです。離婚が多いというのは、今の話にあった、家族が分裂して言っているのを示しているのかなと思いますし、労働事件の方は、職場が壊れていっているのを示しているのかなというふうに思います。

《 壊れゆく職場 》

組合として集团的に戦いましょうということではなくて、一人で相談に来て、一人で闘う。そういう労働者の方が増えている。働く人が職場の中で孤立化していっているというか仲間が

いない。そういう一体感の喪失というような現象が、法律相談を受けていると非常に感じます。

正社員とか非正規社員とか、働く人の中に区別があるというか差別があるという状況で、その間には、ぬぐい去れない大きな収入の差と社会的な保障の差があります。仲良くしようとしても、その非正規の人がいつまでその職場にいるかわからない。仲間というか一体感の持ちようがありません。それは、非正規社員同士もそういう意味では同じだと思います。

《 労働者は団結できるのか 》

なんでぼくの給料があいつのために下げられるのか？と言って、それは仕方ない(派遣社員の解雇)じゃないかという話しになると、整理解雇の4要件が成り立たなくなる。最近の裁判例を見ていると、どうもそう考えているような裁判例が出てきているのではないかと思います。

働く人が孤立化して行って、職場が一体感がないというようなことが増えてくると、裁判の中でも当たり前だと思っていた法理がどうも変容してくる。働く人たちが暮らしている社会の中も、ギスギスして分裂していくと、そういうことにつながると思います。職場で協力共同できない人が、社会に戻ったら協力共同できるということはまずないと思う。

《 女性に対する保障が足りない 》

貧困の家庭では、さきほどダブルジョブという話しが出ましたが、生きていくために働かなければいけない。働くことだけを考える。子供のことも含めて、他人のことなどかまっておれないということになると、当然社会とか公共のことを考える時間はないし、考えなくなることで、社会がどんどん壊れていくということになるのかなと思います。

特に貧困なのは女性。歳を取っていくと本当に貧困になります。それは、年金システムが女性是非常に少ない。

月5万円ぐらいの国民年金で、1年間で60万円しかない。100万円切る女性がほとんど。独身の場合はですね。雇用保険とかできちっと

かかっている人はいいけど、不安定雇用ではとんでもない話。女性に対する保障が足りない。

女性の子育て含めて、育児休業期間を不安定雇用の人もきちっと取れるようにするとかしないと、小児化も子供の貧困も無くなっていかないと思う。

- 「新しい階級社会」の話しは、紙面の都合で割愛しました。 -

////////////////////

会場からの発言

////////////////////

会場から、報告について、いくつかの質問が出ました。C先生の「経済的に貧しくても、機会は均等にあるか」という問題で、報告は否定的でしたが、会場から異論がありました。また、B先生の「学校での怪我に保険証がいる」という件では、社会的な問題と指摘がありました。健和会からの「無料定額診療」の説明もありましたが、これからの運動の課題でもあります。第一部の最後は、各パネラーからの今後の方向性についての提起で終わりました。

////////////////////

九州セミナーに向けた課題

////////////////////

【田村】子供の貧困の問題は、緊急に解決すべき問題だけど、子供の問題だけを取り上げて解決というのなかなか難しい。背景にある親の働き方の問題であったり、もっと大きな福祉の問題もあわせて考えていく必要がある。人間らしくどう働く職場や地域を作るかということが、子供たちを豊かに育てていくこととも関係がある。今年の11月にある九州セミナーで、今日参加していただいたみなさんがたにも参加をしていただきたいと思いますし、子供の貧困の問題をより深めて、議論をしながら九州セミナーを迎えたい。

…第一部完 第二部は次号で紹介します。